

まちのわだい



大規模火災を想定した広域訓練

～西部広域消防圏連合演習～

伯耆町内での大火災を想定した西部広域消防圏連合演習が8月25日、荘を演習地として行われました。

この演習は、自治体間の相互応援により、大規模火災への対応と連携を強化する目的で、毎年県西部の町村から一か所選定して行われます。

今年の実習は、荘集落の裏山から出火し、強風により民家に延焼が拡大。伯耆町消防団だけでの消防力では劣勢と判断し、県西部の広域消防圏町村消防からの応援により消火にあたるという内容です。

伯耆町消防団と応援部隊のスムーズな連携により、消火活動が行われました。



火点へ放水する各団員



中継車に向かってホースを展開

防災組織のモデルに選ばれる

～とっとり防災フェスタ2013～

鳥取県が主催する「とっとり防災フェスタ2013」が9月8日、鳥取市で開催され、そのなかで防災活動が特に優れているとして、伯耆町区長協議会が知事から表彰を受けました。

とっとり防災フェスタは、70年前の昭和18年9月10日に発生した鳥取大地震を教訓にし、災害に強いまちづくりについて考えようと、鳥取県が毎年開いています。その中で積極的に防災活動に尽力している団体や個人に対し、鳥取県自主防災組織等知事表彰が送られました。

今回受賞したのは、伯耆町区長協議会を含む県内7つの団体です。伯耆町区長協議会は、防災活動が進まない地域に対し、避難訓練の必要性について指導を行い、地域防災を活性化してきたことが評価されました。

この日、表彰状を手渡した知事は「知恵と行動力あるこれまでの実践を、県内の他の地域にも広げてほしい」と、エールを送りました。



知事から表彰状を受け取る白根会長

悲惨な戦争を繰り返さないために

～伯耆町戦没者追悼式～

戦没者の追悼と平和を祈念した伯耆町戦没者追悼式が9月6日、鬼の館で行われ、遺族や関係者およそ120人が参列し、役場、議会からも多くの関係者が列席しました。

はじめに、厳肅な雰囲気の中、参列者は黙祷を行いました。第2次世界大戦では日本全体でおよそ310万人が亡くなり、伯耆町でも590人が戦争の犠牲となりました。

式では、森安町長が「21世紀に生きる私たちは、常に国家の史実を風化させることなく、後世に語り継いでいかななくてはなりません」と追悼の辞を述べました。続いて、伯耆町遺族会副



英霊に花をささげる参列者



追悼の言葉を送る遺族代表の米田さん

会長の米田寛さんが、遺族の代表として、英霊に対し追悼の言葉を送りました。最後に参列者一人ひとりが献花を行い戦没者の冥福を祈りました。

長寿のお年寄りを表彰

～100歳記念品贈呈～

敬老の日を前に9月14日、伯耆町内で100歳を迎えるお年寄りを訪問し、表彰状と記念品が贈られました。

この日町長が訪問したのは、福島集落の中田ぬいさんです。

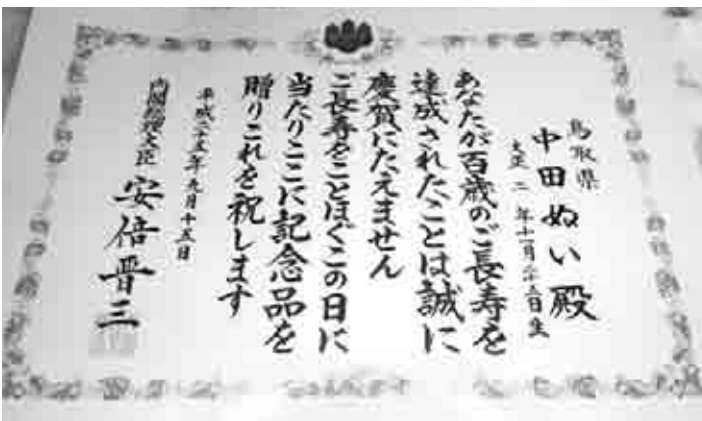
町長は、日本政府からの表彰状を伝達し、銀杯と記念品を贈りました。ぬいさんは笑顔で答え、周りは和やかな雰囲気になりました。

11月25日で100歳になるぬいさんは、9人家族の最長老で、元気の秘訣は、積極的にデイサービスに出かけることだそうです。

今年町内で100歳になるお年寄り3人で、100歳以上は7人となります。



笑顔で答える中田ぬいさん



安倍総理大臣から贈られた表彰状